

## 第57回 三重泌尿器科医会抄録 The 57th Mie Urological Meeting, Abstracts

日 時：平成27年1月25日（日）

場 所：三重大学医学部 臨床講義棟 第2講義室

### 1. 愛知県がんセンター中央病院における 2014年入院手術統計

愛知県がんセンター中央病院 泌尿器科  
曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男

年間手術件数は、155件であった。腎・腎盂尿管・副腎の手術では、根治的腎摘除術が12件（開腹3例、腹腔鏡下7例、MIES2例）、腎部分切除術が4件（マイクロターゼ3件、腎動脈クランプ1件）、腎尿管摘除術が3件、腹腔鏡下副腎摘除2件であった。膀胱の手術では、膀胱全摘除術が5件（回腸導管が2件、皮膚瘻3件）、TUR-BTが47件であった。前立腺の手術では、前立腺全摘除術が20件（全症例ミニマム創手術）、Brachytherapyが13件であった。精巣の手術では、高位精巣摘除術4件、除睾術が2件であった。その他の手術では、前立腺saturation biopsyが16件、膀胱腔瘻修復術が1件、膀胱尿管新吻合は1件であった。

### 2. 名古屋セントラル病院泌尿器科の2014 年手術統計

名古屋セントラル病院 泌尿器科  
黒松 功, 古澤 淳, 山田泰司  
四日市羽津医療センター 泌尿器科  
平林 淳

名古屋セントラル病院における2014年の手術統計をM-CUREの統計分類に従って集計した。体外衝撃波結石破碎術39例を含めた手術総数は341例であった。前立腺肥大症に対するレーザー手術（PVP）が137例と最も多く昨年とほぼ同数の症例数であり、当院の特色を示す手術の需要が引き続き多い傾向であった。また前立腺生検をこれまで

で最も多い108例に施行し、全体での癌検出率は44.4%であった。前立腺全摘術は昨年とほぼ同様の15例と2011年までの20例台から引き続き減少したが、前立腺がんに対する強度変調放射線治療（IMRT）を23例に施行し、すべての症例で合併症なく施行可能であった。

### 3. 四日市羽津医療センター入院手術ESWL 統計

四日市羽津医療センター 泌尿器科  
平林 淳, 加藤貴裕

【目的】当院における入院手術ESWL統計結果を報告する。【結果】入院総数は256名、年齢は19－96歳（平均62.6歳）、在院日数は1－48日（平均4.8日）であった。尿路結石症患者が89名であった。手術総数は197例でTULが21例、f-TULが73例であった。ESWLは新患症例が349例、総破碎回数は596回、平均破碎回数は1.71回であった。【考察】本年は入院総数、ESWL総数は平年と変化なく手術症例はやや増加した。f-TULとESWLの併用療が増加した結果、手術総数が増加し平均破碎回数がやや減少したと思われた。

### 4. 三重県立総合医療センター泌尿器科にお ける2014手術統計

三重県立総合医療センター 泌尿器科  
松浦 浩, 荒瀬栄樹  
亀山腎泌尿器科クリニック  
堀 靖英  
小山田記念温泉病院  
栃木宏水

三重県立総合医療センター泌尿器科における2014年の統計を報告した。手術室で施行した手術件数としては常勤医が1名減となり人事異動もあった2013年は79件であったが、2014年は103例と例年並みとなった。主要手術の中では、膀胱全摘術（2013年2例）と根治的腎摘出術（同4例）が0例となった。TURBt（同42例）経尿道的膀胱採石術（同8例）とTESE（同4例）の件数が各々、64例、10例、6例と増加した。一方、小児泌尿器および副腎関連の手術は行われなかった。また、前立腺生検数は2013年の42例に比べ、2014年は47例と若干増加した。

## 5. 2014年手術統計

鈴鹿中央総合病院 泌尿器科

西井正彦，鈴木竜一，長谷川万里子，  
荒瀬栄樹，荒木富雄

鈴鹿中央総合病院における2014年のESWLを除く総手術件数は280例で、昨年より6例減少した。全身麻酔、腰麻下の手術件数は56例、169例で全麻は10例減少、腰椎麻酔は13例の増加であった。一方、局所麻酔下の手術はブラッドアクセス依頼も多いが、7例減少した。悪性腫瘍手術は、前立腺全摘25例、根治的腎摘4例、膀胱全摘6例、腎尿管摘出術6例で腎癌の手術は減少したが、前立腺、膀胱全摘、腎尿管摘出の手術は変化なかった。TUR-BTはsecond TURも行っているが99例と増加した。前立腺生検273例うち117例が陽性で増加した。ESWL件数は63回と大きく減少した。

## 6. 2014年手術・前立腺生検統計

三重中央医療センター 泌尿器科

岩本陽一，加藤雅史

【目的】2014年手術・前立腺統計を発表する。

【対象】当院で2014年に施行した手術87例（腎瘻造設・尿管ステント挿入を除く）、前立腺生検55例。

【結果】開腹単純腎摘出術：1例、腹腔鏡下腎摘出

術：2例、開腹腎部分切除術：1例、後腹膜鏡補助下腎尿管全摘除術：3例、膀胱全摘・尿管皮膚瘻造設術：1例、膀胱部分切除術：1例、TUR-Bt：41例（内second TUR-Bt：5例）、前立腺全摘除術：7例、TUR-P：8例、陰嚢水腫根治術：6例、高位除辜術：2例、去勢術：5例、陰茎部分切除：1例、精巣捻転手術：1例、包茎環状切開：3例、経尿道的尿道切開術：1例、経尿道的膀胱結石摘出術：3例、腎瘻増設術：7例、尿管ステント挿入：72例、前立腺生検：55例。前立腺生検患者のうち、28例（50.9%）で前立腺癌を検出した。

【結語】2014年手術・前立腺生検統計を発表した。

## 7. 2014年三重大学医学部附属病院における手術統計

三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科

金井優博，杉野友亮，吉川昌希，  
西川晃平，矢崎順二，吉尾裕子，  
長谷川嘉弘，神田英輝，有馬公伸，  
杉村芳樹

2014年のべ入院患者数は、男579名、女性173名の計752名であった。手術件数は406件で例年と比べ増加傾向であった。腎・尿管の手術は計68件で、内40件は腹腔鏡手術で行った。腎部分切除、ドナー腎摘出術に対しても前年までと異なり、腹腔鏡下手術で行うようになった。副腎腫瘍に対する手術は計12件で、内8件は腹腔鏡手術であった。尿管鏡検査は8件、TUL2件、尿管狭窄に対する新吻合術は2件であった。TUR-BTは62件、膀胱全摘術は5件と減少していた。前立腺癌に対してはRRPが17件、ブラキセラピーが18件であった。前立腺肥大症に対する開腹手術はなく、PVPが30件であった。生体腎移植術は6件で、献腎移植は0件であった。精巣固定術7件、VUR根治術が6件あった。骨盤臓器脱に対してTVMを施行した症例が15件と増加した。ブランドアクセス関連手術は54件で増加傾向であった。

## 8. 済生会松阪総合病院の2014年の入院・手術統計

済生会松阪総合病院 泌尿器科  
小川和彦, 金原弘幸, 柳川 眞  
済生会明和病院  
森 脩

2014年の入院総患者数は486人(男性395人, 女性91人)で平均年齢68.5歳, 平均在院日数7.6日で, 例年より約20%の減少であった。2014年の総手術件数は239件(ESWL82件, ESWL以外157件)で前年より凡そ100件減少し, 平均年齢69.2歳(14歳~99歳)であった。ESWL以外の手術についてその部位別内訳を見ると膀胱58件, 前立腺と腎・尿管がそれぞれ31件で多く, 腎・尿管の手術が例年より増加していた。また, ESWL総数は例年より40件ほど減少していた。2013年7月から透析専門医にシャント関連手術を全て委嘱したため, 2014年のシャント関連手術件数は0件となり, ESWLとシャント関連の入院・手術の減少が, 入院患者総数や総手術件数の減少の原因と思われた。検査・処置では前立腺針生検や尿管ステント関連の処置は例年並みであった。

## 9. 平成26年松阪市民病院手術統計

松阪市民病院 泌尿器科  
桜井正樹, 米村重則, 稲見亜紀  
三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科  
有馬公伸

平成26年に行われた松阪市民病院の手術統計を報告する。

手術件数は順調に増加していて, 総数395件となった。前年に比べ105件の増加であった。

根治的腎摘出(経腹的)が6例であり, 内1例を内視鏡下手術で行った。腎盂尿管腫瘍に対する腎尿管全摘出は7例で, 腎尿管悪性腫瘍手術は13例であった。

膀胱に関しては, 膀胱全摘が9例(尿管皮膚瘻9, 回腸導管3)で, 年齢, 基礎疾患などで長時間手術不能と判断され尿管皮膚瘻の症例が多かった。

TUR-Btは35例で昨年とほぼ同数であった。

前立腺手術は, 全摘出が6例とやや低下, TUR-Pは38例と11例の増加であった。

ESWLは約倍の113例となり, また新規症例も19例増加している。新しい機械を導入し医療側の負担が減少したための増加と考える。

TUL, f-TULは変化はない。

CAPD, PTAにも力を入れ始めたので, 透析関連の症例も増加傾向である。

## 10. 平成26年入院・手術統計 市立伊勢総合病院

市立伊勢総合病院 泌尿器科  
今村哲也, 堀内英輔

### ①入院総数422名(男:女=321名:101名)

入院の内訳は悪性腫瘍(腎癌 腎盂尿管癌 膀胱癌 前立腺癌 精巣癌 陰茎癌 後腹膜脂肪肉腫)95例, 尿路結石症177例, 前立腺肥大症13例, 尿路感染症16例が主な疾患であった。また前立腺生検による入院は58例であった。

### ②手術総数329例

内訳は腎尿管全摘1例, 膀胱部分切除術1例, TUR-Bt 34例, TUR-P 12例, 前立腺全摘5例, 高位精巣摘出術2例, 結石関連ではESWLは103例, TUL37例, f-TUL25例, 経尿道的膀胱結石破碎術14例などであった。

### ③その他

前立腺癌に対する強度変調放射線療法(IMRT)は21症例に施行した。

## 11. 2014年伊勢赤十字病院手術統計

伊勢赤十字病院 泌尿器科  
芝原拓児, 東真一郎, 舛井 寛, 大西毅尚

伊勢赤十字病院における2014年の手術統計を報告する。総手術件数は267件であり腹腔鏡下副腎摘除術が6例, 腎癌に対する手術は腹腔鏡下腎摘除術が16例, 開腹手術が3例であった。腎盂尿管腫瘍に対する手術は10例であり後腹膜鏡下腎尿管

摘除術が7例，開腹手術が3例であった。膀胱癌に対してはTUR-Btが107例，膀胱全摘が4例（尿管皮膚瘻3例，新膀胱1例）であった。腹腔鏡下前立腺全摘術は33例で開腹手術はなかった。

腹腔鏡下手術は64例で前年とほぼ同数であった。同種血輸血を要した症例はTUR-Pで1例，開腹腎摘と尿管全摘術で3例，被膜下前立腺の摘除術で1例，膀胱全摘で1例であった。TUR-P施行時に重篤な合併症をきたした症例を当時の状況を省みて改善点などを考察し報告した。

## 12. ICG 近赤外蛍光補助下の腎部分切除術における，腫瘍組織と正常組織の蛍光定量化比較

愛知県がんセンター中央病院 泌尿器科  
曾我倫久人，小倉友二，林 宣男

### 【目的】

術中に正常組織と腫瘍組織を識別する目的で，近赤外蛍光補助下腎部分切除を行い，その有効性を腫瘍組織と正常組織の蛍光光度を定量化することにより評価した。

### 【方法】

切除前，切除中，切除標本（Ex-vivo）で，近赤外蛍光による腫瘍と正常組織の蛍光量の相違を評価した。

### 【結果】

切除前の評価では，正常組織が，腫瘍組織と比較して蛍光量が有意に高値であることが確認された。切除面のモニタリングで，切除面と正常部位の光度は同等であった。切除片に関しては，正常組織の蛍光光度が有意に高いことが確認された。

### 【結論】

近赤外蛍光法は，腫瘍組織と正常組織の蛍光量の明確な相違が存在し，腎腫瘍部分切除時の切除面評価として有益であることが考えられた。

## 13. 当科における前立腺全摘除術の手術成績

伊勢赤十字病院 泌尿器科

大西毅尚，東真一郎，舛井 覚，芝原拓児

単一術者にて施行された前立腺全摘除術127例の手術成績の検討および術式別の手術成績比較検討をおこなった。

PSA 非再発率は2年：91%，5年で85%であった。

腹腔鏡下前立腺全摘術（LRP）：64例と開腹前立腺全摘術（RRP）：63例の比較では，手術時間はRRPで短かったが，出血量，切除断端陽性率，尿道吻合に伴う手術合併症に関してはLRPが優っていた。尿失禁改善率は，術後早期はRRPがやや有利であったが，6か月以降は同等の成績であった。またLRPの手術手技の習熟に伴い，手術時間は短縮され，早期尿失禁改善率ともRRPとの差はほぼ解消された。